



富岡地区は中富、十四軒、フラワーヒル、神米金、所沢新田、北田、岩岡、三商北中、向陽ハイツ、下富、武野台、ネオポリス、郊外マンション、さつき台、上岩岡、北中、東海、エステシティの18地区で構成されています。

◆「活動報告と環境行政に思うこと」

富岡地区環境推進員協議会 会長 渡邊 昌

当協議会では、春と秋の「環境美化の日」への参加や「砂川堀及び神米金新道清掃活動」、「歩きたばこ等防止キャンペーン」、「花苗の地区内の小中学校等への寄贈」などの環境維持活動や「もったいない市」でのリサイクル活動を通してごみを減らしてCo2削減などの施策に取り組みました。

所沢市では、近年『まちごとエコタウン推進計画』を策定したり、プラスチックごみや食品ロスの削減に取り組んだり、スマートハウス化推進補助事業を創設する等様々な活動を行っています。そして、SDGs（持続可能な開発目標）先進度調査の環境部門で全国815市区中第一位受賞（日本経済新聞社）や所沢市環境推進員連絡協議会が環境保全功労団体として、埼玉県知事表彰を受けるなど、活発な環境推進行政を行い成果をあげています。

一方、日本全体では残念ながら、昨年12月に190を超える国と地域から約2万人が参加して、スペインのマドリードで行われた国際会議「COP25」では、Co2削減に協力的ではないとの厳しい評価を受けました。

この会議にはスウェーデンの16歳（当時）グreta・トゥーンベリさんも参加して話題となりましたが、子供たちの将来にとっては私たち大人以上に重要な問題で、昨年12月に東京ビックサイトで行われた環境展示会「エコプロ2019」に沢山の小学生が課外活動として見に来ていたことからも、その真剣さが伺えます。



とからも、その真剣さが伺えます。

“地球を守ろう”という言葉が使われ始めた頃、『なんと人間は傲慢で上から目線なのだろう。自然はもっと雄大・偉大なものでちっぽけな人間などあつという間に飲み込んでしまう。地球を守ろうなんておこがましい。』と言った登山家がいたが、確かにそうかもしれない。しかし、その人間の行いが今、自然環境を破壊しつつあるのもまた現実です。

一部の企業や団体、自治体や学校など様々な業界で持続可能な社会の実現に向けているような取り組みや研究開発を行っています。まだまだ始まったばかりで、私たち大人一人ひとりがやるべきことはまだ沢山あるはずで。

当協議会としてもいろいろな活動を通して更に環境推進活動を充実・発展させていくためにも、地域の皆さんと一緒に今後の一つひとつの活動に真摯に取り組んでいければと思います。

◆「海洋プラスチック問題とプラスチックごみについて」の講座に参加して



中富自治会環境推進員 千葉 守男

米ニューヨークの国連本部で開催された『気候行動サミット』で温暖化対策を訴えてきたスウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさんの演説が注目されました。国際舞台で16歳の少女が環境問題への疑問を提起したことは、大きな意味をもつと思います。

プラスチックは1835年より、安く、軽く、作りやすく、分解されにくい…など、とても便利なものですが、そのプラスチックが現在大きな社会問題になっています。とくに海洋プラスチック問題では、その結果ウ

ミガメがポリ袋を食べて死んだ事実があります。毎年800万トン以上のプラスチックごみが海に流れており、1億5000万トンを超える海洋プラスチックごみがあるとされています。

その内、2~6万トンは日本からのゴミです。プラスチックは家庭等から川を経て海に流れていき、その間に太陽の光や波などによってどんどん細かくなっていきます。それを魚、亀、鳥などが、餌と一緒に食べてしまいます。それを私たちが食べた場合の健康への影響が心配されています。

海のない所沢市ですが、川を通じて海とつながっている私たちの暮らしです。私達ができること。

- ・ 買い物をする際には使い切れる量を買う。
- ・ ごみを出す際に分別して出す。
- ・ 外出時にはマイバックを持参し、レジ袋をもらわない。
- ・ 水筒・マイボトルを持ち歩く、等が考えられます。

私たち一人一人がゴミの減量に努めることを、今回の講座に参加して改めて、強く考えさせられました。

●「郊外マンションの環境美化推進活動」の紹介

郊外マンション自治会環境推進員 中村 秀雄



郊外マンションの真ん中を神米金新道が通っています。この市道に沿って長い花壇を作りました。私達はここで自治会のボランティアの方達と一緒に市が推進する「みどりのパートナー」に登録し、花を通じてみどりの活動をしています。

花壇に植える花や時期はボランティアのグループが考えています。去年は秋に植えたビオラが2月上旬に降った雪にもめげず元気に咲いていました。2月も末頃になると

気温も上昇し、ビオラの間からチューリップの芽が出始め、3月上旬には、赤、白、黄色や色とりどりの花が咲きました。丁度この時期に開催される富岡地区のウォークラリー大会のコースは、花壇の前を通るので、参加される皆さんに楽しんでいただくように全員で整理しています。

春の花が終わりに近づき、梅雨に入るとアヤメの仲間では大きな花弁をつけるジャーマンアイリスが咲きました。梅雨が明け暑い夏に向けて花壇には球状の花をつけるセンニチコウや

真っ赤な炎のように咲くケイトウ、又は茎の先に星形の小さな花が集まって咲くペンタスを植えました。



昨年は気候の変わり方が激しく1ヶ月程ずれていたようです。チューリップの球根を植えたのも11月中旬となり、周りには秋から春まで咲きつづけるパンジーを200株配置しました。

近年温暖化が進み記録的猛暑日が続いたり、昨年のように台風による大雨等、花にとっても良い状況ではありませんでした。私達の住む富岡周辺は、所沢市の北部に広がる武蔵野台地です。

この地域の環境は標高70m前後の台地であり、乾燥しやすい土地とのこと又、水はけが早く日当たりが良いとすぐ乾いてしまいます。



猛暑の年を経験して水やりを楽しみたいと、ボランティアグループに相談して、農家の散水を手本にビニールホースを常置しました。本栓を開閉するだけで散水できる

ので、空いた時間を利用して、花の手入れ、落葉の片付けや雑草取りをしています。今年も1000株のチューリップが花を咲かせます。腐葉土を作ったり土いじりをして土壌を良くしたいと思っています。

◆「視察研修」に参加して

神米金自治会環境推進員 西海 広司



昨年10月24日、所沢市の水道水の入口と出口にあたる浄水場と下水処理場に視察に行きました。

最初に、東京外環自動車道の新倉パーキングエリア近くにある新河岸水循環センターを視察しました。

ここでは、荒川右岸10市3町の下水を集め、高度処理をして新河岸川に放流しているとの説明を受けました。水処理施設の見学にうつり、数種類の沈殿池や微生物の働きにより汚れを分解する反応タンクなどを処理順に見て

いきました。15時間以上の時間をかけ、少しずつ汚水がきれいになり、悪臭がなくなる様子がよくわかりました。また、この処理には電力・燃料など多くのエネルギーや薬品が使用されていることもわかりました。

次に、さいたま市にある大久保浄水場を視察しました。ここは県南中央・西部の15市1町に給水を行なう国内最大級の浄水場で、所沢市の水道水の90%もここから給水されているとのことでした。浄水場は川から取水するために川の近くにありま

す。昨年の台風19号のとき、もし荒川が氾濫していたら、送水ポンプなどの施設に大きな影響が出ていたかもしれないと聞きました。災害時用の飲料水の備蓄を多めにしっかりしなければと感じました。

2施設を見て、水処理には多くのエネルギーを使用していて、環境に大きな負荷をかけるので、節水や油、ゴミを流さないなど自分達にできることをして、少しでも負荷を軽減することが大切だと思いました。

●「もったいない市」に参加して

武野台自治会環境推進員 高杉 佳世



春季6月23日(日)、秋季9月29日(日)。富岡まちづくりセンターにて、「もったいない市」が開催されました。両日共に、たくさんの方に再利用品など持って来ていただきました。その中には、きれいな服、陶器類、日用品などまだまだ使えるものがたくさんありました。

捨てるに必要ととしてくださる方に使ってもらえる再利用、その名の通り、「もったいない市」だと思いました。捨てるにはもったいない、まだ使えるのでは…と思う物は是非「もったいない市」へ持って来て頂き、たくさんの品物の中から掘り出し物を探すのもとても楽しいかと思えます。

●「歩きたばこ等防止啓発キャンペーン」に参加して

ネオポリス自治会環境推進員 星野 春江

環境推進員の事業の一環として、毎年7月と11月に新所沢駅東口にて、歩きたばこ等防止啓発キャンペーンを実施しております。私は、11月12日に参加致しました。18時に集合で、他の自治会の推進員の方々と一緒にポケットティッシュ配りを実施しました。

通行中の方に「よろしくお願いします。」「歩きたばこ防止キャンペーンです。」と声をかけながら手もとにティッシュを渡して行くと、皆、快く受け取っていただきました。

ティッシュには、トコロんと「歩きたばこ及びポイ捨ては、市内全域で禁止されています！」と書かれています。

自分の地域周辺でも、たばこの吸いながらを目にする事があります。

きれいな環境、良い地域を保って行かなくては、いけないと改めて思い、良い体験をさせていただきました。

【自治会活動の紹介】

二つの自治会での活動を紹介します。

●下富自治会環境推進員 大河原 寿宏

毎年、5月と11月の決められた日曜日に、「環境美化の日」という名目で、所沢市内自治会にて一斉清掃活動があり、私の自治会では役員、班長、子供会親子さん達が多数参加をいただき、だいたい1時間位で多くのゴミが回収されてきました。

私の知っている限りでは、昔に比べたらだいぶゴミの量は減っているように感じました。ただ地域柄、個人所有の雑木林が多数あり、その場所には家庭の粗大ゴミや事業系のゴミなどが不法投棄されている現状がいまだにあり、不快を感じるとともに、責任をもって適正なゴミの処分をして欲しいと思いました。

●所沢新田自治会環境推進員 北田 喜美雄

所沢新田自治会は、100世帯ぐらいで、野菜畑と茶畑と木々の緑豊かな良いところです。車の交通量や人通りの多い道路ではないので、ゴミや空き缶、タバコのポイ捨てなども多く出ません。

放置自転車が一台出ただけで警察に電話したら、回収してくれました。この地域は低い所なので、夏の台風や豪雨になると、川になります。

そのため、排水溝にゴミや土が溜ります。春、夏の環境美化には、地域住民皆様の積極的な取組と生活道路の日々清掃により、常に美しい景観が保たれています。

これからも日々の積重ねの大切さを心に刻みたいと思います。